

原作者  
脚色並監督者  
撮影者  
主演者

帝キネ青屋現代映畫

小瀧すみ子  
松本英一氏嬢  
和志田誠氏  
藤間林太郎氏  
歌川八重子嬢

紹介  
久し振りの帝キネの軍事劇で、劇的興味こそ少なかつたが可憐な幼兒を使つての悲壯なラストまで少しも無理な感ぜず見終る事の出来た映畫であつた。松本英一氏の脚色並監督は、劇としては恐てを極めて上品に扱つて居る點が氣に入つた。そうしてお秀の忠節と可憐な孤兒が依つて觀客を感動せしめ、これに依つて云はんとする「愛國」のテーマを巧みに見る者に傳へて居る。戦争の場面は總體に巧妙であるが、内地に於ける戦争細分が全然出て居なかつた。歷闇林太郎氏の大久保大尉は本の職だけ板に付いて立派であった。歌川八重子嬢はお秀は大役でありながら演所のない損な役であるが優しい女性の一端は充分出して居た。撮影は戦争の場面がよく撮れて居た。

山本綠葉

興行價值  
一日活邊りの軍事劇に對抗出来る立派な軍事劇だから何れの館にも向く映畫である  
(昭和元年十二月卅一日、淺草大勝館封切)